

メッセージ

第18回「核戦争に反対し、核兵器廃絶を求める医師・医学者のつどい」のご盛會を祝し、皆様に心からのご挨拶を申し上げます。

広島・長崎の被爆から62年目を迎えました。

人類が作り出した最も残忍な兵器、核兵器による地獄を体験させられた私たちは、今日まで、自らの命を削る思いで被爆体験を語り、原爆被害への国の責任を追及するとともに、核兵器による犠牲者が2度と生まれぬことを強く願って、運動を続けてきました。

しかし今、被爆者にとって生きる希望ともなってきた9条を含む憲法の「改正」への動きが現実となり、日本が再び戦争をする国にしようとする動きが活発になってきています。

アメリカでは、より「使いやすい」戦略核兵器の開発に余念がなく、核兵器の廃絶を願う世論に耳をかそうとはしません。国連を無視して始められたイラク戦争も泥沼化し、終息への行方が見えないまま、犠牲者ばかり増えつづけています。

このような中、核戦争体験者としての私達の役割は、前にも増して重要になってきています。

ふたたび被爆者をつくらぬ証として、原爆被害への国家補償を求め、非核の日本の実現をめざしてさらに奮闘する決意です。

核兵器のない平和な世界を実現するため、私たちは1日でも長く生きて被爆の実相を語り、強く世界の世論に訴えてまいります。

ともに手を携え、戦争のない平和な世界を作り出していきましょう。

みなさまの熱心なご活動に深く敬意を表しますとともに、今後のより一層のご発展を心より念ずるものであります。

2007年 9月 23日

日本原水爆被害者団体

